

地域医療連携室たより

No.30

発行日
2015年5月8日

医療法人社団松柏会
至誠堂総合病院



地域医療連携室たより
第30号

「至誠堂総合病院 第13回地域連携交流会」開催

2月27日（金）大手門パルズ 午後6時30分～

テーマ 地域と共にささえる褥瘡治療

標記交流会に多数御参加いただき、ありがとうございました。以下、ダイジェストでお伝えします。



全体討議



左 桑原一道 至誠堂総合病院 看護師
右 高橋敬治 至誠堂総合病院 病院長



当院における褥瘡治療の現状

至誠堂総合病院 副院長、院内褥瘡対策委員会委員長 外科
杉原 保

当院での褥瘡治療

褥瘡の外科的手術としては、デブリードメント、局所皮弁術、ポケット解放術、ドレナージ術があります。当院では主にデブリードメント、ドレナージ術を行っています。2010年からの5年間でドレナージ術を行った件数は16例あり、内12例は在宅や施設へ退院しています。症例としては80代から90代が多く褥瘡の悪化で死亡した例はありません。

地域連携を展望して

高齢化社会の進行に伴い、終日床上で生活する「自立度C」の方が増えると予想されます。「自立度C」は褥瘡のハイリスクとなり栄養管理やスキンケア、マットレスなど褥瘡予防に配慮することが大切です。

褥瘡に感染を合併すると、急激に悪化し痛みや悪臭を伴い、直接の死因（敗血症）となることもあります。褥瘡の悪化は本人にとっても、家族にとっても耐え難いものであり、入院治療を必要とするケースが多く当院では積極的に入院を受け入れています。

褥瘡の誘因は多様で病態を総合的に判断し、治療方針を確立することが必要です。局所の治療のほか、栄養面や良肢位の保持などが重要で多職種の間で関与が求められます。当院では週1回の褥瘡回診と月1回の委員会開催を行い予防や対策に取り組んでいます。

褥瘡完治には長期間を要することが多く、入院しての治療には時間的な限界があるため、ある程度まで改善したら施設や訪問看護などで療養を継続してもらいたいと考えています。

当院としては、ご紹介頂いた患者さんを一般病棟で診させていただき治療方針を立て、その後地域包括ケア病棟で治療し、転棟後2ヵ月以内に退院を目指し、地域医療に貢献したいと考えております。



フロアからの発言



褥瘡の栄養とケア

～在宅での栄養の問題と栄養摂取のコツ、ポイント～

福島県いわき市 かとう内科クリニック 管理栄養士

田村佳奈美

在宅領域での褥瘡を含む栄養ケアの問題点とは？

東日本大震災以来、地域でフリーランスの管理栄養士として活動しています。高齢者の身体的特徴としてあげられることの一つは加齢に伴い、身体の構成成分では脂肪が増え、筋肉が減ってくることです。それにより体内貯留水分が減り、脱水がおりやすくなり、低栄養がおこってきます。低栄養の原因は疾患的なものもありますが、不適切に栄養管理がなされていることがあります。

栄養のアセスメント（評価）を共通の言語として

病院や施設におけるチーム医療のなかで、アセスメントが重要です。世界老年医学会などでも使われるもので「MNA（簡易栄養状態評価表）」があります。チェック項目はA. 食事摂取量の減少はあるか B. 体重減少はあるか C. 自力で歩けるか D. 精神的ストレスはあるか E. 神経・精神的問題（認知）はあるかなどです。往々にしてアセスメント不足による低栄養、これを防ぐことが大切です。特に高齢者用のアセスメントが必要。共通の言語として活用していただきたいと思います。

地域でのチームケアが重要

在宅療養を支えるためにもチームケアが重要ですが、管理栄養士として地域や在宅での活動は不十分な現状があります。必要なアセスメントが行えていない、栄養ケアが十分に行えない、病状が進行してしまうという悪循環に陥ります。そうすると褥瘡や肺炎、感染症など重篤な疾患の危険性が高くなり、医療費や家族に負担が大きくなるなど問題点がでてきます。褥瘡の患者は特に「低栄養」から「骨突出」がおき、そこに圧が加わって起きますが、根幹に栄養の問題があります。

ヘルパーの研修会を開催

現在、富山にあるクリニックで非常勤管理栄養士として、外来患者の栄養相談に対応したり、往診に同行、在宅訪問栄養相談にのったり、勉強会の開催などを行っています。そこでヘルパーの悩みを聞く機会



フロアからの発言

があり、たくさんのお悩みや問題点が出てきました。調理器具に限られていたり（炊飯器と電気ポットのみとか）、食材の制限があったりという状況のなかで頑張っておられるヘルパーに研修会を昨年の9月から開催しています。悩みに即した調理アイデアの実演と試食、お料理レシピの配布など情報交換をしています。栄養士が在宅へ十分に行けない現状で、ヘルパーに同じ意識でがんばってもらう取り組みが必要だと感じます。併せて、ご飯をカロリーアップさせるメニューや、補助食品の料理活用例な

どの例をあげ、在宅での工夫のポイントが述べられました。

在宅での栄養士活動の課題 顔の見える栄養士に

高齢者はちょっとしたイベントがおこると、栄養の「負のスパイラル」がおきます。低栄養症候群がおき、筋肉が減少し寝たきりになってしまいます。そうならないために個々人のアセスメントを行い、適切な栄養の摂取と運動を実施し、また再度アセスメントを実施していくことが重要です。これからは、管理栄養士が在宅で活躍できるシステムづくりとその構築が重要であり、地域や在宅で専門性を発揮し、栄養ケアの普及と啓蒙に努めたいと考えます。



在宅で考える褥瘡予防・治療の実際

山形済生病院 皮膚・排泄ケア認定看護師

黒木ひとみ

褥瘡を診る

褥瘡を診る時は局所だけを診るのではなく、「部位、形状、深さ」の状態からどうして褥瘡が発生したのかを考えることが不可欠です。褥瘡ができた原因を解明した上で治療方針・ケア方法・対策をたて、悪化させないためにはどうしたらいいのかりスクアセスメント

を行っています。褥瘡は数時間で簡単にできてしまい、対策を間違えるとあっという間に悪化する事も多い為、時には早急に自宅訪問を行うなど現場主義に徹底し患者の生活をみていく事を重要視しています。

褥瘡ケアのポイント

褥瘡を早く治すには「圧力」「スキンケア」「栄養」の3つの柱（ケア）があり、その中で特に圧のコントロールが重要です。

ケアの面では治療過程を評価するためのツールとしてDESIGN-Rがあり、大文字を小文字にする管理を考える事が重要です。褥瘡治療の目標は患者の状態によって変わるものであり医療介入の程度はそれぞれの患者・家族の思いやニーズによって考えていく必要があります。患者に寄り添いながら無理のないケアをしていく事が再発予防の点でも重要です。

在宅での褥瘡管理

在宅で褥瘡を見る場合、①無理をしない ②統一した指導内容の徹底 ③適切なプランの作成など、「生活を支える」という患者・家族の立場に立った視点で多職種と連携していく事が重要です。また、現在在宅で褥瘡治療を行う際、治療材料が医療保険で算定可能となっており、さらにWOCナース同行の訪問看護が可能になった事もあり新設された制度を上手に活用していく事が重要になっています。



病院長挨拶

至誠堂総合病院院長 高橋 敬治

日頃より当院の医療活動にご協力いただきありがとうございます。みなさんご存知のように日本は高齢化がすすんでおり、平成17年度以降世界で最も高齢化率が高い社会になっています。山形県の総人口は減ってきていますが、平成26年度はいわゆる団塊の世代が高齢者となり、高齢者33万人、高齢化率29.6%となっています。高齢者の一人暮らしも増え、平成25年には山形県の一人暮らしの高齢者は31,660人であり、率では9.7%となっています。このような背景のもと、厚労省は「入院から在宅へ」「医療から介護へ」とすすめています。我々はこの地域にあって高齢者医療に力を入れて取り組んでいます。早くから在宅医療、在宅看護に取り組んできました。1992年には訪問看護ステーションを山形県第1号として立ち上げています。昨年4月に定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業「至誠堂ホームケア24」を、10月には入院してから2ヶ月以内で自宅に帰ることを基本にした「地域包括ケア病棟」を立ち上げました。対象になる方がおられましたらぜひご紹介いただきたいと思います。交流会では会場からたくさんのご意見をいただき、より良い交流の場になることを願っています。よろしくお祈いします。

第二部懇親会

懇親会が行われ、病院や施設の方々からご挨拶をいただき、一時間あまりでしたが、なごやかに「顔の見える連携」が行われました。



回復期リハビリテーション病棟 体制強化

専従の医師、社会福祉士（ソーシャルワーカー）を配置

——早期の機能回復、早期の退院を——

ここは当院4階回復期リハビリテーション（リハビリ）病棟。ベッドサイド、デイルーム、廊下、または機能訓練室で患者さんのリハビリが行われています。2010年3月に60床を開設しました。脳卒中や骨折などの疾患や外傷の患者さんに対し、リハビリを行い日常生活活動の向上を図る病棟です。発症・受傷、あるいは手術後2カ月以内の方が対象となります。

速やかな機能回復と退院を促進するためには、質の高いリハビリを提供できるように体制を整える必要があります。回復期リハビリ病棟の体制強化の一環として、3年以上の経験を持つ専従の社会福祉士を配置すること、そしてリハビリ医療に3年以上の経験があり回復期リハビリ医療の研修を修了した専従の医師を配置することが推進されています。当院でも3月1日から医師として谷口央（日本リハビリテーション医学会専門医・指導医）と専従の社会福祉士1名を配置しています。

社会福祉士は退院に向けて、患者さんやその御家族との面談を繰り返し、活用できる社会資源などにつき、他のスタッフと連携しながら在宅や施設での生活を支援しています。34名のリハビリスタッフが回復期リハビリ病棟に携わり、土、日、祝日を含め365日訓練をしています。

医師、看護師、介護士、リハビリスタッフ、管理栄養士、薬剤師、社会福祉士がチームになり、患者さんご家族を総合的にサポートします。

転院の受け入れは地域医療連携室で行っています。どうぞご相談下さい。



「1、2、3、4、5……」
数を数えながら立位保持訓練



ベッドサイドでの関節可動域訓練

医師2名が4月1日より着任しました。
よろしくお願ひします。



川瀬 隆一



瀬角 英樹

消化器内科 **せ すみ ひで き**
瀬 角 英 樹

(日本消化器内視鏡学会 専門医)
外来診療日：毎週 月 午後
火・水 午前・午後

内 科 **かわ せ りゅう いち**
川 瀬 隆 一

外来診療日：毎週 月・木 午前
金 午後

我が街 桜町・木の実町・旅籠町商店街 ⑳



落ち着いた雰囲気の店内



レストラン パリ21区

山形市木の実町9-4 2F Tel 023-674-7078
営業時間 ランチ11:00~14:30 ディナー17:30~21:30
定休日 日曜日

今年2月にオープンしました。フランス料理をベースにした洋食を提供しています。コンセプトは「野菜たっぷり、体にやさしい料理を」です。ランチメニューのハンバーグやハヤシライスには付け合せの野菜が豊富です。コーヒー付きで1,080円。夜のディナーは3,000円コースから用意されています。ワインなどのアルコールもどうぞ。場所は木の実マンション西側です。ご利用ください。



日本医療機能評価機構認定施設
病院機能評価



野菜たっぷりハンバーグ



煮込んだ牛肉がやわらかいハヤシライス

至誠堂総合病院
地域医療連携室
山形市桜町7-44
023-622-7551 (直通)
http://www.shiseido-hp.jp
E-mail mail@shiseido-hp.jp
発行責任者 至誠堂総合病院
小林 真司
編集 地域医療連携室